

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年10月30日

上場会社名 日本デコラックス株式会社
 コード番号 7950 URL <http://www.decoluxe.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 重夫
 問合せ先責任者(役職名) 経営企画課長 (氏名) 佐藤 洋介
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 名

TEL 0587-93-2411
 平成25年12月9日

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	2,904	8.6	349	26.1	363	23.9	214	46.4
25年3月期第2四半期	2,674	4.5	276	△3.1	293	△6.3	146	△20.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	26.36	—
25年3月期第2四半期	18.00	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
26年3月期第2四半期	14,761	—	12,774	—	86.5	1,571.62
25年3月期	14,753	—	12,680	—	86.0	1,560.09

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 12,774百万円 25年3月期 12,680百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	8.00	—	10.00	18.00
26年3月期	—	8.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 25年3月期期末配当金の内訳 普通配当 8円00銭 記念配当 2円00銭

3. 平成26年 3月期の業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	6.6	700	10.6	720	8.0	400	24.7	49.21

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P. 3「サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	8,930,000 株	25年3月期	8,930,000 株
----------	-------------	--------	-------------

- ② 期末自己株式数

26年3月期2Q	801,719 株	25年3月期	801,619 株
----------	-----------	--------	-----------

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	8,128,352 株	25年3月期2Q	8,129,318 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
4. 補足情報	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融政策などのいわゆるアベノミクス効果により、輸出企業を中心に企業収益に改善が見られるなど、景気回復の明るい兆しが徐々に現れております。

このような環境の下、当社は5月に新本社ビルを竣工いたしました。この本社ビルは、屋上に設置した太陽光発電設備による発電量を全て売電し、地下水を利用した空調システム、LED照明、外断熱構造等により建物の使用電力量を大幅に削減し、環境に徹底的に配慮したゼロエネルギーオフィスとなっております。

当社の主要な製品別の状況は以下の通りです。化粧板製品では、高圧メラミン化粧板については、東京都心の再開発需要による大型物件のオフィス家具需要は減少したものの、積極的な拡販活動により、当社製品の品質、意匠性及び価格が市場で評価され、新規顧客を獲得した結果、販売は増加いたしました。また、不燃メラミン化粧板「パニート」は、リフォーム市場や戸建住宅の新築市場の需要に加え、病院や学校などの非住宅市場における需要も拡大したことにより、販売は増加いたしました。また、珪藻土を主原料としたバスマットでお風呂上がりの濡れた足を乗せても足跡が数分で消える「驚異の吸水力」、表面がいつもサラサラしておりカビやダニの発生を抑えた「衛生面」やメンテナンスが簡単な「洗濯不要」といった特長の「足拭き用 パニートバスマット」を市場に投入し販売を開始いたしました。その結果、化粧板製品の売上高は1,920百万円（前年同四半期比110.9%）となりました。電子部品業界向け製品は、依然として業界全般的に低調な状況が続いており、当社のプリント基板用フェノール樹脂積層板の販売も減少いたしました。その結果、電子部品業界向け製品の売上高は347百万円（前年同四半期比90.8%）となりました。ケミカルアンカー製品は、昨年秋に上市した電動ドリルでも施工ができる等施工性を向上させ、更に建物の利用者や施工者の健康にも配慮した非スチレンカプセルの「新Rタイプ」が市場で評価され、販売は増加いたしました。また、震災復興関連工事における需要は鈍化したものの、太陽光パネル設置工事における需要が増加いたしました。その結果、ケミカルアンカー製品の売上高は558百万円（前年同四半期比101.7%）となりました。

また、前期3月に新規事業として本社工場及び三重工場に合わせて1メガワット規模の太陽光発電設備を建設しており、上述の本社ビル屋上の太陽光発電設備を含めて、順調に売電を行っております。本事業による当第2四半期累計期間の発電量は80万kWh（一般住宅世帯約140戸分相当）であります。

これらの結果、売上高は2,904百万円（前年同四半期比108.6%）、経常利益は363百万円（前年同四半期比123.9%）、四半期純利益は214百万円（前年同四半期比146.4%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における総資産は、前期末に比べて7百万円増加し、14,761百万円となりました。これは主に、現金及び預金や有価証券が減少したものの、有形固定資産や投資有価証券が増加したこと等によるものです。負債は前期末に比べて85百万円減少し、1,986百万円となりました。これは主に、未払法人税等が増加したものの、未払金が減少したこと等によるものです。また、純資産は前期末に比べて93百万円増加し、12,774百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が減少したものの、四半期純利益を214百万円計上したこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成25年5月15日の「平成25年3月期 決算短信（非連結）」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,675,295	1,397,377
受取手形及び売掛金	2,082,873	1,990,500
有価証券	5,097,004	4,469,630
商品及び製品	247,008	342,432
仕掛品	44,257	48,343
原材料及び貯蔵品	272,059	292,771
その他	80,480	120,565
貸倒引当金	△43	△41
流動資産合計	10,498,936	8,661,578
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	946,750	1,495,681
土地	1,338,912	1,834,687
その他(純額)	1,045,835	939,892
有形固定資産合計	3,331,497	4,270,261
無形固定資産	12,636	15,501
投資その他の資産		
投資有価証券	458,777	1,361,624
その他	451,703	452,513
投資その他の資産合計	910,480	1,814,137
固定資産合計	4,254,614	6,099,900
資産合計	14,753,551	14,761,479
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,042,709	1,013,692
電子記録債務	—	102,840
未払法人税等	17,118	150,123
引当金	45,753	63,737
未払金	392,791	26,509
その他	244,577	303,592
流動負債合計	1,742,950	1,660,495
固定負債		
役員退職慰労引当金	251,375	258,310
その他	78,231	68,064
固定負債合計	329,606	326,375
負債合計	2,072,556	1,986,871
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,515,383	2,515,383
資本剰余金	2,305,533	2,305,533
利益剰余金	8,219,298	8,352,285
自己株式	△367,600	△367,656
株主資本合計	12,672,613	12,805,545
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,380	△30,937
評価・換算差額等合計	8,380	△30,937
純資産合計	12,680,994	12,774,608
負債純資産合計	14,753,551	14,761,479

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	2,674,071	2,904,679
売上原価	1,699,198	1,810,569
売上総利益	974,872	1,094,109
販売費及び一般管理費	697,995	744,988
営業利益	276,876	349,121
営業外収益		
受取利息	19,212	12,032
受取配当金	605	674
為替差益	—	9,301
受取保険金	8,595	—
その他	2,460	850
営業外収益合計	30,873	22,859
営業外費用		
支払利息	6	6
売上割引	7,162	7,970
為替差損	159	—
和解金	6,000	—
その他	962	379
営業外費用合計	14,290	8,355
経常利益	293,459	363,625
特別利益		
固定資産売却益	164	58
投資有価証券売却益	539	62
特別利益合計	704	120
特別損失		
固定資産除却損	41,598	4,269
その他	4,340	1,246
特別損失合計	45,939	5,515
税引前四半期純利益	248,224	358,229
法人税等	101,900	143,958
四半期純利益	146,324	214,271

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

4. 補足情報

平成26年3月期第2四半期決算短信参考資料

1. 平成26年3月期第2四半期の業績

(1) 経営成績

(単位：千円未満切捨)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)		当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)		前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	
	金額	前年同期比 (%)	金額	前年同期比 (%)	金額	前年同期比 (%)
売上高	2,674,071	104.5	2,904,679	108.6	5,626,043	104.3
営業利益	276,876	96.9	349,121	126.1	632,865	100.3
経常利益	293,459	93.7	363,625	123.9	666,628	97.6
四半期(当期)純利益	146,324	79.7	214,271	146.4	320,713	89.5
1株当たり四半期 (当期)純利益	18円00銭		26円36銭		39円45銭	

(2) 製品別売上高

	売上高			コメント
	金額	構成比	増減率	
化粧品製品	百万円 1,920	% 66.1	% 10.9	化粧品製品では、高压メラミン化粧板については、東京都心の再開発需要による大型物件のオフィス家具需要は減少したものの、積極的な拡販活動により、当社製品の品質、意匠性及び価格が市場で評価され、新規顧客を獲得した結果、販売は増加いたしました。また、不燃メラミン化粧板「パニート」は、リフォーム市場や戸建住宅の新築市場の需要に加え、病院や学校などの非住宅市場における需要も拡大したことにより、販売は増加いたしました。また、珪藻土を主原料としたバスマットでお風呂上がりの濡れた足を乗せても足跡が数分で消える「驚異の吸水力」、表面がいつもサラサラしておりカビやダニの発生を抑えた「衛生面」やメンテナンスが簡単な「洗濯不要」といった特長の「足拭き用 パニートバスマット」を市場に投入し販売を開始いたしました。
電子部品業界 向け製品	347	12.0	△9.2	電子部品業界向け製品は、依然として業界全般的に低調な状況が続いており、当社のプリント基板用フェノール樹脂積層板の販売も減少いたしました。
ケミカルアン カー製品	558	19.2	1.7	ケミカルアンカー製品は、昨年秋に上市した電動ドリルでも施工ができる等施工性を向上させ、更に建物の利用者や施工者の健康にも配慮した非ステンレスの「新Rタイプ」が市場で評価され、販売は増加いたしました。また、震災復興関連工事における需要は鈍化したものの、太陽光パネル設置工事における需要が増加いたしました。
その他	77	2.7	645.7	
合計	2,904	100.0	8.6	

(3) 業績の説明

業績につきましては、売上高売上原価率が62.3%と1.2ポイント改善いたしました。また、売上高販管費比率が25.6%と0.5ポイント改善した結果、売上高営業利益率は1.7ポイント改善し12.0%となりました。

(4) 設備投資について

本社事務所ビル、賃貸オフィスビル及び工場の生産設備等に11億80百万円の投資を行いました。なお、当第2四半期累計期間における減価償却費は1億65百万円であります。

(5) 配当金について

配当金につきましては、中間配当金として8円、年間配当金16円を予定しております。

(6) 財政状況について

総資産147億61百万円、純資産127億74百万円、自己資本比率86.5%、1株当たり純資産1,571円62銭であります。

2. 通期の見通し

(1) 経営成績予想

売上高	60億円	対前期増減率	6.6%増
営業利益	7億円	〃	10.6%増
経常利益	7億20百万円	〃	8.0%増
当期純利益	4億円	〃	24.7%増

(2) 製品別売上高

(単位：百万円未満切捨)

	通期予想		
	金額	構成比 (%)	増減率 (%)
化粧板製品	4,050	67.5	6.6
電子部品業界向け製品	650	10.8	△5.6
ケミカルアンカー製品	1,150	19.2	2.8
その他	150	2.5	619.0
合計	6,000	100.0	6.6

(3) 設備投資について

当下半期の設備投資は、主に工場の生産設備等に1億77百万円の投資を予定しております。なお、通期の減価償却費として3億58百万円を予定しております。